

山留め仕様書（記載例）

1 山留め工法

- ・ 親杭横矢板壁、自立
- ・ 鋼矢板壁、鋼製支保工1段
- ・ ソイルセメント柱列壁、鋼製支保工2段

2 山留め壁材及び根切り深さ

根切り深さ	山留め壁材			
	杭材	杭長	杭間隔	矢板厚
GL-2.000 (case1)	H-200×200×8×12	l=5.500m	@1.000	30mm
GL-5.000 (case2)	S P-IV	l=7.500m	-	-
GL-7.500 (case3)	ソイルセメント壁 厚さ 11.000m (応力材) H-450×200×9×14 l=10.000m @450 ソイルセメント設計基準強度 $F_c = 5 \text{ kg/cm}$			

※「矢板厚」は実際使用する厚みを記入する。

3 山留め支保工材

段	架設位置	山留め支保工材		
		腹起し	切ばり	火打ち
1	GL-1.000	H-250×250×9×14	H-250×250×9×14	H-250×250×9×14
2	GL-4.000	H-300×300×10×15	H-300×300×10×15	H-300×300×10×15

4 施工方法

1次掘削 (GL-2.000m)

- ・ バックホウにて所定の深さまで掘削。
- ・ GL-1.000mの位置に1段目切ばり、腹起しを架設。

2次掘削 (GL-5.000m)

- ・ バックホウにて所定の深さまで掘削。
- ・ GL-4.000mの位置に1段目切ばり、腹起しを架設。

3次掘削

- ・ バックホウにて所定の深さまで掘削。クラムシェルにて積込み。
- ・ バックホウ及び人力にて床付け終了後、ただちに捨てコン打設。

1次盛替

- ・ 立上がり壁コンクリート打設後、盛替え材を設置し、2段目切ばり、腹起しを撤去。

2次盛替

- ・ B1Fスラブコンクリート打設後、盛替え材を設置し、1段目切ばり、腹起しを撤去。

5 埋戻し及び矢板、親杭の撤去

地下構造体の構築後、締固め効果の高い良質土を機械にて締固めながら埋戻しを行う。

矢板または親杭の撤去は、周辺地盤や、隣接構造物に障害を与えないよう適切な処理をする。

6 排水処理

排水設備は、釜場を設けて水中ポンプを用い濁水を吸上げ、沈殿槽にて浄化したのち、汚水桝に放流する。